

如ク協定セリ

五〇

一、陸軍主擔任區域（海軍ハ副擔任トス）

香港、比島、英領、馬來、「スマトラ」、爪哇、英領「ボルネオ」、緬甸

二、海軍主擔任區域（陸軍ハ副擔任トス）

蘭領「ボルネオ」、「セレベス」、「モルツカ」群島、小「スンダ」列島、「ニューギニア」「ビスマルク」群島、瓦無島

第三章 開戦直前ニ於ケル彼我ノ状況

第一節 敵情判断（出所一起案擔任者個人保存資料）

一、昭和十六年作戦計畫立案當時ニ於ケル豫想作戦地方面ノ敵情左表ノ如ク南方各方面總計陸軍兵力約三十六万、飛行機約七〇〇機ニシテ尙連續増加セラレ年末頃ニ至ラハ莫ニ著シク増強セラルベシト判断セラレタリ

(1) 南方敵國陸軍兵力一覽表

地方 區分	部隊種類		素質		部隊數人		員 全員合計
	正	規	英人	印度人	部	隊	
馬來	正	規	英人一部	印度人一部	步	七	一、〇〇〇
	軍	規	英人一部	印度人一部	一師團	基幹	三〇、〇〇〇
緬甸	義	勇	馬來人一部	馬來人一部	若	干	八〇、〇〇〇
	支	那	訓練、裝備不充分				二〇、〇〇〇
英領「ボルネオ」	正	規	英人		二	〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
	義	勇	英人		二	〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
香港	正	規	主トシテ印度人		一	三、五〇〇	三、五〇〇
	義	勇	主トシテ馬來人		一	三、五〇〇	三、五〇〇
比律賓	正	規	米人、土人、各半數		四	三、〇〇〇	一六三、〇〇〇
	海	兵	米人		九	〇〇〇	一六三、〇〇〇
瓦無島	比	島國防軍	土人		一	二〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇
	海	兵			三	〇〇〇	一八〇、〇〇〇
蘭印	內	領	一部歐人		二	師團	七〇、〇〇〇
	外	領	同右		二	〇〇〇	七〇、〇〇〇
合計	正	規			二	〇〇〇	二二五、〇〇〇
	全	兵			三	七三、〇〇〇	三三三、〇〇〇

(一) 本表ノ外印度ニ約五十万、濠洲ニ約三十五万、新西蘭ニ約十万ノ兵力アリ

(二) 本表ノ外泰國ノ正規兵ハ約三万ナルモノノ如シ

(2) 南方敵國空軍兵力一覽表

備考	計	蘭印		比律賓				香港	緬甸			馬來			地方區分												
		海軍機	陸偵察機	陸戰鬥機	陸爆撃機	海艦載機	哨戒爆撃機	偵察機	驅逐機	爆撃機	戰爆混合機	驅逐機	義勇軍	飛行艇	雷撃機	偵察機	戰鬥機	爆撃機	機種別	中隊數	機數	機數合計					
	七二〇	一三〇	三六	一三〇	五〇	三〇	三〇	二	一	二	一	一	二	三	四	四	四	四	四	四	一三	七五	一八	約三〇〇	約一〇	約五〇	二〇〇以上
(一)本表ノ外印度ニ約二〇〇機 蒙洲ニ約二五〇機 新西蘭ニ約一〇〇機以上 アルモノノ如シ (二)本表ノ外泰國ニハ約一八〇機アルモノノ如シ																											

五二

備考	蘭		米		英										國			
	印	印	國	國	支那及比島方面	地中海	布哇以東	新西蘭方面	濠洲方面	方面	東阿方面	孟買方面	白倫母方面	新嘉坡	香港	支那及比島方面	名	所在
(一) 本表ニハ推定ノ隻數ヲ算入シアリ	蘭	印	布哇方面	支那及比島方面	地中海	布哇以東	新西蘭方面	濠洲方面	方面	東阿方面	孟買方面	白倫母方面	新嘉坡	香港	支那及比島方面	艦	種	
			七		五	一				一						艦	戰	
			七	四	四					一						母	空	
		五	一八	二	一五	一		五	二	五		九	四		一	艦	洋	巡
		八	四六	一四	五五				三		二	二	五六	三		艦	逐	驅
		一九	二八	一七	二〇											艦	水	潛
		三六	四三	二六	二		一一	一九	一		九	一三	二四	五三	二	他	ノ	其

(8) 南方ニ關係アル敵國海軍兵力一覽表

五三

三、南方作戰ノ地域ハ米、英、蘭三國ノ殖民地集團タル關係上協同戦力ノ發揮及白人ト土人トノ精神的團結ニ不利ナル等ノ弱點アルヘク敵側ノ綜合戦力發揮ニ困難性少カルヘシト判斷セラル

三、泰、緬甸方面ノ敵航空兵力ハ微弱ナルモ馬來方面ノ敵ハ新來ノ「スピットファイヤ」ノ掩護ノ下ニ雷撃機及爆撃機ヲ以テ我上陸企圖破挫ニ勉ムヘク蘭印空軍ハ「スマトラ」「ボルネオ」方面ヨリ英空軍ニ協力スヘシ

比島方面ノ敵航空ハ一部ノ爆撃機ヲ除キ各種多ク性能優秀ナラズ四、極東蘇軍ハ歐蘇方面ノ戦況ノ逼迫ニ伴ヒ其ノ兵力ヲ逐次歐本國方面ニ轉用セラレタルモノノ如ク兵力、素質低下シアリ現在師團約二十戰車約千三百輛、飛行機約千五百機ト判斷セラル而シテ南方作戰開始セラルルヤ米、英、蘇ノ接近ハ必至ニシテ歐洲戦況ト關聯シテ蘇カ帝國ニ對シテ攻撃的態度ニ出テ或ハ米國力其ノ軍隊特ニ航空兵力ヲ極東蘇領ニ進出セシムルコト等ノ虞アリト判斷セラレタリ

第二節 帝國陸軍ノ狀況（出所―第一節ニ同シ）

一、全般兵力配置

昭和十六年十二月ニ於ケル陸軍總兵力ハ地上部隊ハ師團五十箇、混成旅團及之ニ準スルモノ五十九箇ヲ基幹トシ航空部隊ハ飛行戰隊約四十箇ヲ基幹トスルモノニシテ其ノ兵力並ニ作戰用資材ノ配置左ノ如シ

(1) 陸軍地上部隊配置一覽表

方面	區分		司令部名	所在地	隷下番號	隷下混成旅團及之 ニ準スルモノノ總數
	司令部	司令部				
内地	防衛總司令部	東京	防衛總司令部	東京		
		東京	東部軍司令部	東京	第五十二	四
		大阪	中部軍司令部	大阪	第五十四	三
		福岡	西部軍司令部	福岡		三
		札幌	北部軍司令部	札幌	第七	一
		京城	朝鮮軍司令部	京城	第十九、第二十	
		臺北	臺灣軍司令部	臺北		
		新京	關東軍司令部	新京	第九、第十二、第十八、第三十	一
		牡丹江	第三軍司令部	牡丹江	第九、第十二	四
		北安	第四軍司令部	北安	第一、第十四、第五十七	五
		東安	第五軍司令部	東安	第十一、第二十四	四
		滿洲	第六軍司令部	海拉爾	第二十三	一
洲	第二軍司令部	錦州	第八、第二十五	四		
支那	關東防衛司令部	新京		三		
支那	支那派遣軍總司令部	南京		三		
支那	北支那方面軍司令部	北京	第二十七、第三十五、第四十一、第三十六、第三十七、第四十二	五		
支那	第一軍司令部	太原		三		
支那	第十二軍司令部	濟南	第十七、第三十二	三		
支那	駐蒙軍司令部	張家口	第二十六、第一騎團	一		
支那	第十一軍司令部	漢口	第三、第六、第十、第三十四、第三十九、第四十	二		
支那	第十三軍司令部	上海	第十五、第二十二、第一百	五		
支那	第五軍司令部	廣東	第三十八、第五十六、第一百	一		
南方	南方軍總司令部	西貢	第三十一			
南方	第十軍司令部	高雄	第十六、第四十八			
南方	第十五軍司令部	佛印	第三十三、第五十五			
南方	第十六軍司令部	高雄	第二			
南方	第三軍司令部	三亞	近衛、第五、第十八、第五十六			
備	本表ノ外大本營直轄トシテ左ノ部隊アリ 第四師團(上海) 南海支隊(小笠原) 本表ノ外内地、朝鮮ニ留守師團 置アリ					

(2) 陸軍航空部隊配置一覽表

備考	合計	南方 第五飛行集團	支那 第一飛行集團	滿洲 第二飛行集團	内地 第一飛行集團	方面區分		司令部名	所在地	隊數									
						司令部名	所在地			戰鬥	重爆	輕爆	偵察	直協	計				
備考 本表戰隊數欄ノ數字中括弧ヲ附セルハ獨立中隊數ヲ示ス		獨立 第二十一飛行隊	屏東	ブダペスト	南京	牡丹江	新京	各務原											
	(一)六	(一)	(一)	(一)一	四			四											
	(一)一〇																		
	(一)九	(一)	(一)	(一)	(一)			(一)											
	(一)九	(一)	(一)	(一)	(一)			(一)											
	(一)三	(一)	(一)	(一)	(一)			(一)											
	(一)八	(一)	(一)	(一)	(一)			(一)											
	(一)九	(一)	(一)	(一)	(一)			(一)											
	(一)八	(一)	(一)	(一)	(一)			(一)											

(3) 陸軍作戦用資材配置一覽表

備考	糧食	航空燃彈	自動車燃料	彈藥	種類		單位	總量	集積配置狀況				
					分	區			内地	南方	北方	支那	
備考 本表中括弧内ノ數字ハ十二月中ニ準備スルモノニシテ内數トス	一師團月分	一飛行團月分	一千輛月分	一師團會戰分	一師團會戰分	一師團會戰分	一師團會戰分	一〇五(一四)	一〇	二七(六)	四八(八)	三〇	
	三七〇(三四)	一六七(燃) 一六七(彈)	三五七(一〇)	一四〇	五〇(一〇)	一二五	四八(八)	三〇	八六	九八(三四)	一〇三	八三	
									八八	二〇	四五	一七	

三、開戦時ニ於ケル南方軍各軍ノ態勢（出所：南方作戰記録及記憶）

十二月初頭頃ニ於ケル南方方面各軍ノ態勢左ノ如シ

一、第三飛行集團ハ南支那及北部印度支那ニ集中ヲ完了ス

第五飛行集團ハ南部臺灣ニ展開ヲ完了ス

作戰飛行場ハ臺灣、印度支那方面共ニ所期ノ如ク完成シテ航空

燃料、彈藥等モ作戰ニ支障ナキ如ク前送集積セリ

二、第十四軍ハ其ノ一部ヲ以テ馬公及「バラオ」ニ、第十六師團ハ奄

美大島ニ集合ヲ終リ、第四十八師團及軍直部隊ノ主力ハ高雄及基

隆附近ニ集結シアリ

三、第二十五軍ハ其ノ一部ヲ以テ三亞ニ、第十八師團主力ハ廣東ニ、

軍直轄部隊ノ主力ハ臺灣ニ夫々集結シアリ

四、第十五軍ハ近衛師團主力ヲ以テ南部佛印ニアリ、第五十五師團ノ

一部ハ西貢附近ニ其ノ主力ハ海防ヨリ鐵道輸送ヲ以テ逐次南下中

ナリ

- 5. 第十六軍ノ第五十六師團ノ一部ハ「バラオ」ニ集結シアリ
- 6. 南方軍直轄タル第十八師團ノ一部ハ廣東ニ、第二十一師團ハ徐州ニ集結シアリ
- 7. 南方軍總司令官ハ臺北ニ在リ
- 8. 南海支隊ハ小笠原島ニ集結シアリ

第二篇 戦争第一期ニ於ケル統帥 (自昭和一七六二二一
至昭和一七六二二二)

第一章 南方第一段作戦ニ於ケル統帥 (自昭和一七六二二一
至昭和一七六二二二)

第一節 開戦決定ニ應スル指導

昭和十六年十二月一日廟議開戦ニ決スルヤ大本營ハ開戦第一日ヲ十二月八日ト決定セリ其ノ理由トスル所ハ(出所一起案擔任者記憶)

海軍作戦ノ見地ヨリ日米海軍勢力比率ノ關係上翌十七年三月以降